

=== 直 播 情 報 (第6号) ===

令和元年 7月 17日
農業技術課 広域普及指導センター

1 湛水土中直播栽培（カルパー）

(1) 生育状況

平年に比べて、草丈、葉色は並み、茎数は多く、葉齢は、0.4 葉少なくなっている。

幼穂形成期は、平年より1日遅い7月17日頃と見込まれる。

出穂期は、今後、平年並みの気温で推移すると、平年より1日遅い8月8日頃と見込まれる。

表1 7月16日現在の生育状況（湛水土中直播栽培コシヒカリ）

年次	播種日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色	幼穂形成期 (月/日)	出穂期 (月/日)
R元	5/2	74.7	555	11.2	3.9	(7/17)	(8/8)
H30	5/1	77.3	467	11.6	3.9	7/15	8/5
平年	5/2	77.9	497	11.6	3.9	7/16	8/7
前年比・差	1	97	119	-0.4	0.0	(2)	(3)
平年比・差	0	96	112	-0.4	0.0	(1)	(1)

注1) 平年は21～30年の平均値

注2) 本年の幼穂形成期、出穂期は予測値

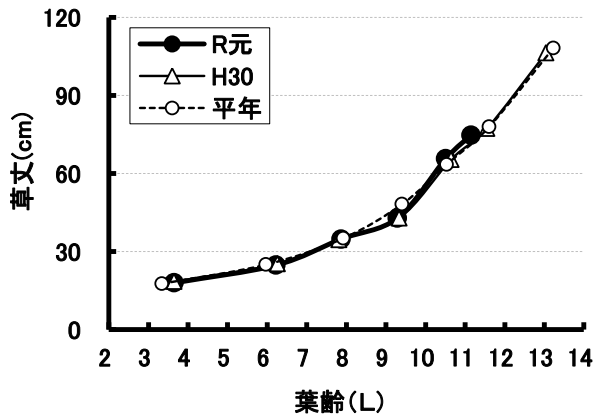


図1 草丈の推移（湛水土中直播コシカリ）

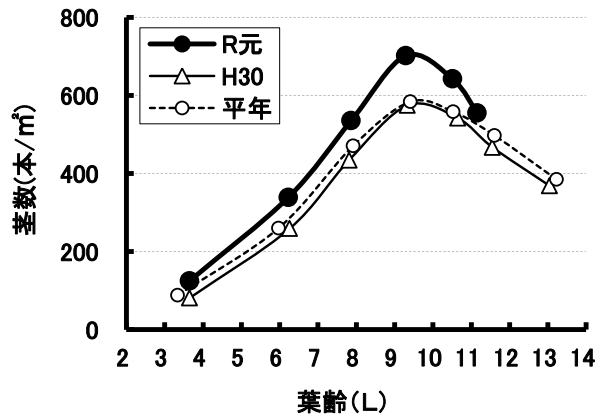


図2 茎数の推移（湛水土中直播コシカリ）

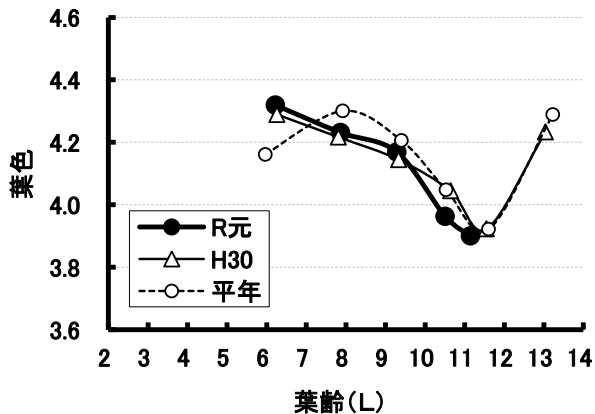


図3 葉色の推移（湛水土中直播コシカリ）

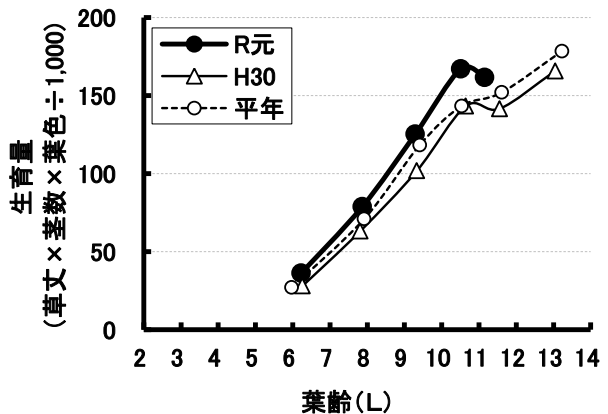


図4 生育量の推移（湛水土中直播コシカリ）

(2) 当面の技術対策

- ・ 幼穂形成期以降は、飽水管理（足跡に水が残る程度の湿潤状態を維持）を行い、葉色の維持に努める。
- ・ 肥効調節型基肥栽培では出穂 1 週間前に葉色を診断し、葉色が薄い場合は確実に追加穂肥を施用する。

① 水管理

- ・ 出穂期までは、飽水管理を行い、葉色の維持に努める。
- ・ 出穂後 20 日間は湛水状態を保ち、登熟期間の稲体活力の維持やカドミウムの吸収抑制を図る。

② 肥培管理

<肥効調節型基肥栽培>

- ・ 出穂 7~10 日前（幼穂形成期から 14 日後、葉耳間長 0cm）に葉色をよく確認し、葉色 4.0（SPAD 値 32）、砂壤土では 4.2（SPAD 値 34）未満と薄い場合は、出穂 3 日前までに窒素成分で 1.0kg/10a 程度の追加穂肥を行い、穂揃期の葉色を 4.2~4.5（砂壤土 4.5）に誘導する。

地力の低い場合は、稲体の活力が低下しないよう、適正葉色に誘導

出穂 7~10 日前の葉色	追加穂肥対応
4.0 未満（SPAD 値 32 未満） ※砂壤土は 4.2 未満（SPAD 値 34 未満）	出穂 3~7 日前に N 成分で 1.0kg/10a
4.0 以上（SPAD 値 32 以上） ※砂壤土は 4.2 以上（SPAD 値 34 以上）	無し

<分施体系>

ア) 1 回目穂肥

- ・ 施用時期は、幼穂形成期から 8~10 日後（幼穂長 15~20mm の時期）を基本とし、適正な生育量の場合は窒素成分で 1.5kg/10a を施用する。
- ・ 幼穂形成期の生育量が目標値を上回る場合には、施用時期を遅らせるか減肥するなど対応し、倒伏や過剰籾数を防ぐ。

表 3 直播コシヒカリの目標生育量

	幼穂形成期 (出穂 22 日前)	幼穂長 15mm の時期 (出穂 14 日前)
草丈	70cm	78cm
茎数	470 本 / m ²	430 本 / m ²
葉色	3.7	3.5

イ) 2 回目穂肥

- ・ 1 回目穂肥の 7 日後に、窒素成分で 2.0kg/10a 程度を確実に施用し、穂揃期の葉色を 4.2~4.5（砂壤土 4.5）に誘導する。

③ 病害虫防除

ア) カメムシ類

- ・畦畔等における斑点米カメムシ類の確認地点率は平年より高くなっていることから、適期を逃さず、確実に防除を行う。
- ・早生品種（てんたかく等）は、穂揃期（出穂3～5日後頃）と傾穂期の2回防除を徹底する。
- ・コシヒカリおよび晩生品種では、穂揃期の防除を徹底する。
- ・例年、カメムシ類の発生密度が高い地域や、防除後も水田内のすくい取り調査で侵入が認められる場合は、追加防除を行う。
- ・近隣に雑草地や麦あと不作付地等がある水田では、カメムシ類の発生が多くなるので、防除を徹底する。
- ・本田内のノビエやホタルイは、アカスジカスミカメの侵入を招き、斑点米被害を助長するので、除草に努める。

イ) 紋枯病 ※平年の初発確認日：6月23日 (R元：6月26日)

- ・前年発生が見られたほ場や「てんこもり」で粒剤を施用していない場合は、穂ばらみ期（粉剤、液剤等）の防除を確実に行う。その他のほ場では、要防除水準を参考にし、適期に防除を行う。

表4 紋枯病の防除要否判定時期（薬剤散布適期）と要防除水準

品 種	防除要否判定時期 (薬剤散布適期)	要防除水準 (発病株率)
コシヒカリ	出穂10日前頃	15%
てんこもり [粒剤施用なし]	出穂7日前頃	防除実施
[粒剤施用済み]	出穂7日前頃	15% (暫定値)

ウ) いもち病 ※平年の葉いもちの初発確認日：7月6日 (H30：未確認)

- ・県内では、7月12、14、15日にいもち病の感染好適条件がみられたので、常発地を中心に巡回し、葉いもちの発生がみられたら直ちに防除する。また、穂いもち防除を確実にを行う。

エ) 稲こうじ病

- ・常発地や前年に発生が多かったほ場では、出穂の10～15日前（銅剤は出穂の10～20日前）に薬剤防除を行う。

オ) 褐色米、ごま葉枯病

- ・登熟期間の高温や稲体活力の低下により発生が助長されることから、適正な施肥、水管理を行う。

農薬散布に際しては、周辺住民への事前の周知と農薬の飛散防止を徹底する。

2 湛水表面直播栽培（鉄）

(1) 生育状況

近年に比べて、草丈はやや短く、茎数は並み、葉色はやや淡く、葉齢は 0.4 葉少なくなっている。

幼穂形成期は、近年より 2 日早い 7 月 16 日頃と見込まれる。

出穂期は、今後、平年並みの気温で推移すると、近年より 2 日早い 8 月 5 日頃と見込まれる。

表 5 7 月 16 日現在の生育状況（湛水表面直播栽培コシヒカリ）

年次	播種日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色	幼穂形成期 (月/日)	出穂期 (月/日)
R元	4/30	71.1	536	11.6	3.8	(7/16)	(8/5)
H30	4/30	77.1	541	11.8	4.0	7/17	8/6
近年	5/1	76.2	524	12.0	4.0	7/18	8/7
前年比・差	0	92	99	-0.2	-0.2	(-1)	(-1)
近年比・差	-1	93	102	-0.4	-0.2	(-2)	(-2)

注1) 近年は26～30年の平均値

注2) 本年の幼穂形成期及び出穂期は予測値

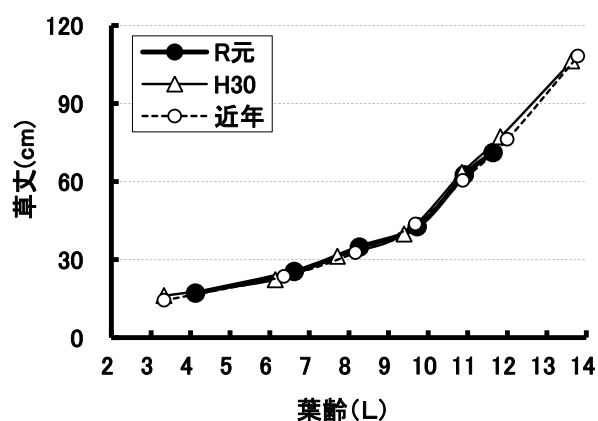


図 5 草丈の推移（湛水表面直播コシヒカリ）

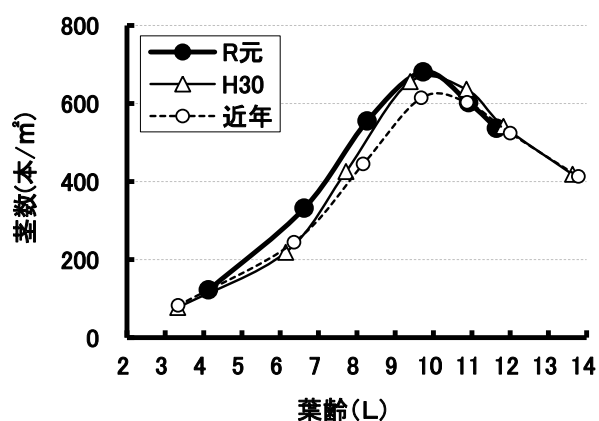


図 6 茎数の推移（湛水表面直播コシヒカリ）

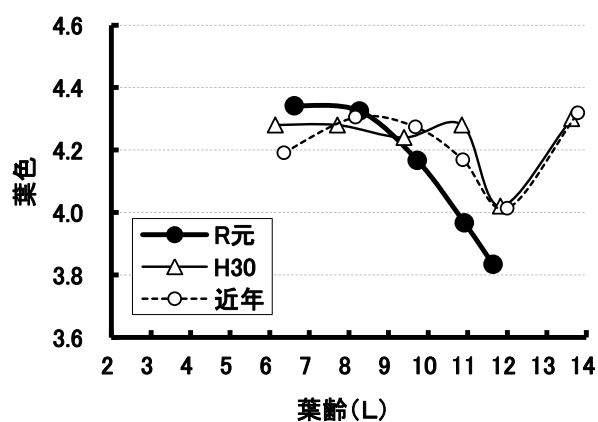


図 7 葉色の推移（湛水表面直播コシヒカリ）

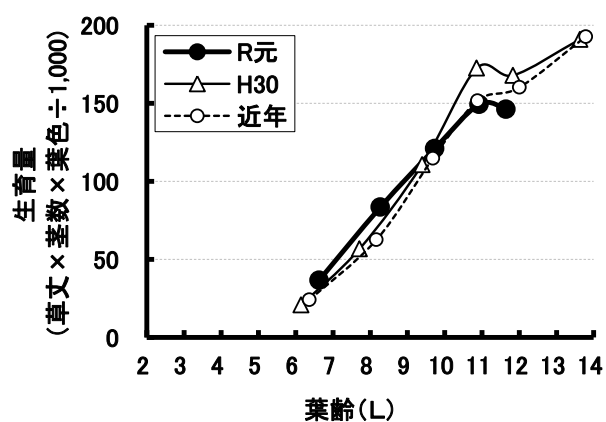


図 8 生育量の推移（湛水表面直播コシヒカリ）

(2) 当面の技術対策

- ・水管理および病虫害防除は、湛水土中直播栽培に準ずる。
- ・茎数が 500 本/m²以上と過剰なほ場では、追加穂肥は慎重に判断する。

3 乾田 V 溝直播栽培

(1) 生育状況

平年に比べて、草丈はやや短く、茎数はやや多く、葉齢、葉色は並みとなっている。

幼穂形成期は、平年より 1 日早い 7 月 19 日頃と見込まれる。

出穂期は、今後、平年並みの気温で推移すると、平年より 1 日早い 8 月 10 日頃と見込まれる。

表 6 7 月 16 日現在の生育状況 (乾田 V 溝直播栽培コシヒカリ)

年次	播種日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色	幼穂形成期 (月/日)	出穂期 (月/日)
R元	4/19	69.5	536.7	10.9	3.8	7/19	(8/10)
H30	4/19	76.4	544.2	11.1	3.9	7/17	8/7
平年	4/22	74.6	501.8	10.9	3.9	7/20	8/11
前年比・差	0	91	99	-0.2	-0.1	(2)	(3)
平年比・差	-3	93	107	0.0	-0.1	(-1)	(-1)

注1) 平年は21～30年の平均値。

注2) 本年の幼穂形成期及び出穂期は予測値

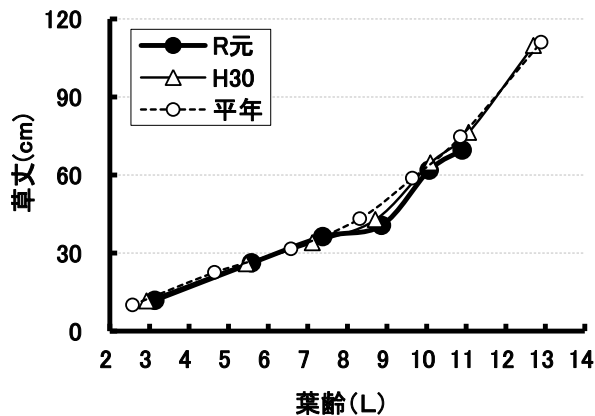


図 9 草丈の推移 (乾田 V 溝直播コシヒカリ)

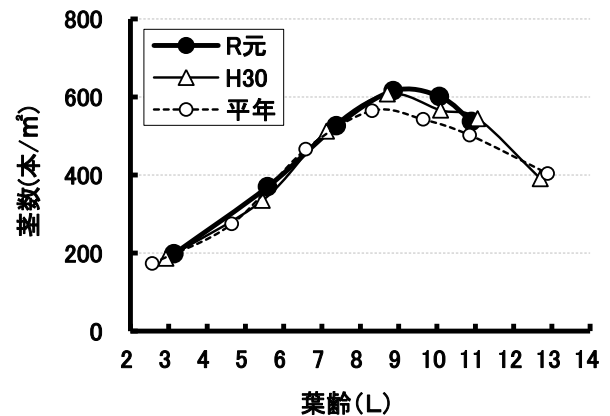


図 10 茎数の推移 (乾田 V 溝直播コシヒカリ)

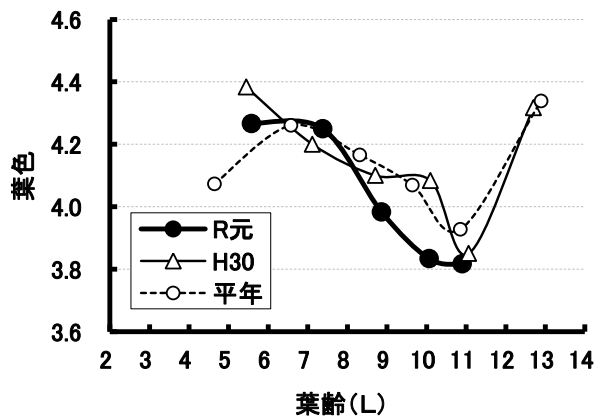


図 11 葉色の推移 (乾田 V 溝直播コシヒカリ)

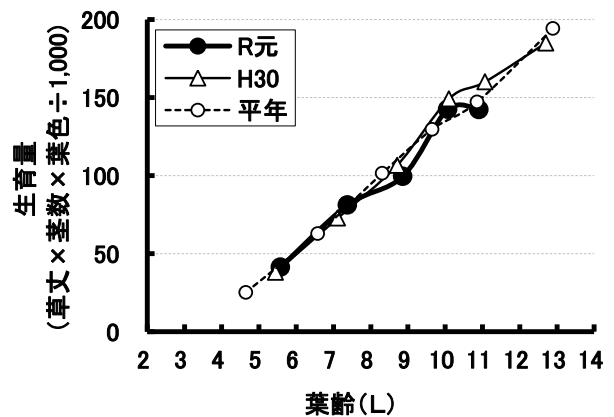


図 12 生育量の推移 (乾田 V 溝直播コシヒカリ)

(2) 当面の技術対策

- ・ 追加穂肥は、湛水土中直播栽培に準じて施用する。
- ・ 水管理は、収穫の 5～7 日前まで深水管理を徹底する。
- ・ 病虫害防除は、湛水土中直播栽培に準じて行う。